

意見募集期間：平成28年11月17日～平成28年12月16日

<p><b>2 八幡浜市立小中学校の現状</b></p>	<p>教員数も減り、教職員の皆様には本当にご苦労されていること感謝しています。地域の実情など踏まえて考えると、小規模校のデメリットよりもメリットの方がかなりありますので、一概には再編化が今すぐに望ましいとは言えません。（公民館）</p>
<p>2（4）小規模化に起因する課題</p>	<p>小規模校の「教育効果」のデメリットを示す欄の中に、「多様な人の生き方や、良さを学ぶ機会が少なくなる」とありますが、それは現在の大規模校にすら存在しないものです。故に、これを小規模校ゆえのデメリットとして数えるべきではありません。</p> <p>同欄の二つ目、「互いの評価が固定化されやすく、競争心や向上心を育てるのが難しい」とありますが、まず子どもの心に関して内面的成長を論じるならば、競争心や向上心を論ずる以前に、「基本的信頼感」という社会性を育む前提となる精神的土台の、確実な形成をこそ考えるべきだと思います。</p> <p>続いて三つ目の「教員数の減少で、中学校では免許外指導が増える」という問題ですが、ネットの生中継による授業を行い、小規模校が互いに各教科専門の教員による授業を行えば解決できる話ではないでしょうか。別途予算が必要にはなるでしょうが、そのための出費は教育環境を整える上のものでありますから、市民の理解も得られるものと思います。</p> <p>その下の欄「学習環境」デメリットの中に「部活動を選択できず、人数が少なくチームを組めない」旨が危惧されていますが、これは単に制度的な不備の言い訳にすぎません。校区外通学が許可制である現状を届出制にするなどして、一刻も早く現在の制度を改善すべきです。そうすることで、このデメリットとして数えられている問題は解決できると思います。</p> <p>「小規模な学校のメリットは（中略）ある程度の規模のある学校においても工夫によって生み出すことができる」とありますが、いったいどんな工夫を、これ以上現場の先生方にせよというのでしょうか。そもそも、現在の先生方に課せられた業務量は大規模校・小規模校を問わず、多すぎです。そこで、新たに追加すべき内容として、「残業なしで帰れる事を最低条件にした学校の職場環境づくりを市教委が率先して行い、まず先生方の負担を減らす」との意味の文言を入れ、かつ実行しない限りは、現場の先生に工夫を求めることは許されないとします。さらには、「その業務を減らす上で、文科省の課した様々な業務が妨げになっていることが明らかになった場合、国へ業務削減の働きかけを行う」旨の文章も明記すべきだと思います。（一市民）</p>
<p><b>3 望ましい学級規模・学校規模</b></p>	<p>合意に至った学級規模については、小学校：25人程度、中学校：30人程度が望ましく、基準値の40人では教育効果も得られにくく教員の負担も大きく現実的ではないと考察する。（PTA）</p>
<p>3（1）望ましい学級規模</p>	<p>教育効果が高いやり方というのは、学ぶ主体である子ども一人一人が違うものですし、公教育は子どもたちにとって受ける義務でなく、受ける権利のあるものであるため、自分にとって最適に近いものを選ぶ選択肢ぐらいいは設けるべきではないでしょうか。本項目の最後に「様々な規模のクラスを用意し、子どもたちや保護者が、自らに最適なクラスの規模を選べる選択肢を設けるべきである」との意味の文章を入れるべきだと思います。（一市民）</p>
<p>3（2）望ましい学校規模</p>	<p>「より現実的であり合理性がある」と記載があるが、理想的ではない。むしろ将来は、「小中一貫性の強い個性的な学校」が期待されるのではないかと。理想を求めてほしい。（公民館）</p>
<p>3（3）市の目指す現実的な学校規模</p>	<p>小学校は、地域コミュニティの拠点である。小学校の学校規模の下限は、複式学級とならない程度まで幅を持たせてほしい。また、学校統廃合においては、地域の意見を十分聞いて進めてほしい。（PTA）</p> <p>クラス替えができないことによるデメリットを考えると、平成23年の学校再編に関する答申は、よく理解できます。また、諮問理由にあるように、これからの社会を生き抜く子どもの育成を考えると、中学校では1学年3学級程度も理解できますが、学校と地域のコミュニティについての関係を慎重に検討をしていただきたい。統合しても保護者や地域の人々と連携・協働した教育が推進できる学校となるよう、1学年2学級程度の中学校については十分に検討をお願いしたい。（学校関係者）</p>
<p><b>4 学校配置の在り方</b></p>	<p>児童・生徒数がこれからも減少していくため、5年後の学校数、10年後の学校数の目安を明記して、市民の意見を聞いた方がいいのではないかと。（PTA）</p>
<p>4（2）望ましい学校配置の考え方</p>	<p>学校の配置は、地方の学校が廃止され、市街地中心部にむけて統合されることが多い。児童数の減少から今後も統廃合が議論されるであろう。次代の小学校統廃合案として、八幡浜市の地理的条件を考え、市街地からサテライト的に位置する神山、千丈、白浜、宮内、喜須来小を提案する。（校舎の耐震強度など考慮していない。）</p> <p>（PTA）</p>
<p><b>5 学校再編を行う際に配慮すべき事項</b></p>	<p>学校の配置を考える際、各学校別の地震や津波の安全面等についても評価をし、これも学校再編の大きな判断の材料とすべきだと考えます。国からも高台に学校を移動するような提言があったと記憶しています。児童・生徒の数だけでなく、安全の視点からも再編成を考えることも必要だと考えます。（学校関係者）</p>
<p>5（1）遠距離通学の支援方針</p>	<p>学校再編を行う際、通学方法・手段については、児童生徒の体力的な負担はさることながら、安全面において最優先に検討し、スクールバス等の支援は、必須であると思われる。（PTA）</p> <p>もし再編化が進んで、神山か松蔭に合併されて通学するとなれば、バスを利用するしかないと思いますが、海岸</p>

	<p>線には宇和島バスを利用するとしても、中高生が利用することもあるので、時間をずらして増便したり、運賃を無料にしてもらったりするなど、心ある措置を取っていただけますようお願いいたします。(公民館)</p>
5 (2) 教育予算に対する配慮	<p>学校の統廃合は、児童・生徒にとって望ましい学校生活環境をつくるためである。市の財政状況が厳しい折ではあるが、将来を担う子どものため最大限予算をつけ学校環境の充実を図ってほしい。(PTA)</p>
5 (3) 保護者や地域住民との共通理解及び地域活動の充実	<p>多様な生き方、良さを学び、社会性を育むためにも地域というコミュニティは重要なウエイトを占めるため、校区再編等により損なわれることなく、公民館活動等は充実性をもち発展していったらいい。(PTA)</p> <p>このような学校統合が進めば、公民館活動の充実は本当に不可欠だと思います。今現在でも農繁期における放課後児童支援事業もしておりますが、学校の協力があってこそ成り立っているところもありますので、この学校がなくなり遠くなることを考えたりすると、少しずつ難点も出てくるかと思えます。(公民館)</p>
	<p>今後の学校再編整備の検討・協議の過程では、地域の丁寧な説明を行い、理解を得るためにも、地域住民の意見を本当に集約するような組織運営をお願いしたい。地域の意見を集約している代表者が参加するようなシステムとなるようお願いしたい。(学校関係者)</p>
	<p>項目の終わりに「公民館活動等の充実を図る必要がある」とありますが、具体的に誰が何をどうすべきなのか、また実際に何をやるのか書かれていないのは良くないと思います。</p>
	<p>また、この中間報告内で部活動についての言及はいくつか見られますが、教員の多忙を指摘する箇所があるにもかかわらず、部活動が教員の過重な負担となってしまう現状への対策は全く見られません。昨今、部活動が教員・生徒ともに大きな負担になってしまっているとの指摘が、他ならぬ全国の先生たちから上がってきており、当市においても今年9月に開かれた議会にて、その旨の質問が竹内氏によってなされました。教育長はその質問に対し、現場から過重労働への不満は上がってきていないとの旨を答弁されていましたが、学校の近くを通れば、勤務時間外なのに遅くまで明かりがついているのを頻繁に見ますので学校ではサービス残業が当たり前になってしまっている状態なのが、別に教育行政関係者でなくとも誰の目にも明らかです。本来は残業が認められない(=残業代がつかない)先生方が遅くまで学校に残らねばならない現状を見て、なぜ過重労働への不満が現場にないなど言ってしまうのか、極めて不審に思います。なのに現場の先生から部活動の負担の重さを訴える声が上がらないのは、教員の方々の間でも部活動問題に関して態度が全く違うゆえではないかと思うのですが、ならばそこを利用し、部活動を別に負担と感ぜない先生にそのまま、学校教育から社会教育へと部活動組織を移行させた後も、そこでコーチなどとして活動していただく機会を設ければよいのではと思います。部活動で疲弊している先生はそこから解放され、引き続き部活動をやりたい先生は公民館という社会教育組織で、活動を続けられる。部活動顧問をやりたい、またやりたくない、どちらの先生にとりましても良い取り組みになると思いますし、それは結果的に公民館活動を充実させることにもつながります。どうか「部活動組織を学校教育から社会教育へと移行させ、公民館活動のさらなる充実を図る」旨を追加していただきますようお願い致します。(一市民)</p> <p>今の現状では生徒の数も年々減少し、この先増える可能性は低いと思うし、各小中学校の合併は避けられないと思う。合併でのメリット・デメリットがあると思うが、これから社会に出た時の集団行動や競争社会を生きていく力を養う上でも、大人数の生徒の中でもまれながら部活動や勉強に取り組んでもらいたい。しかし、校区が広がると子どもたちの休みの日の行動範囲も広がり親の目が届きにくい。しっかりと休みの日の規則を決めてもらいたい。(一市民)</p>
5 (4) 通学区域の見直し	<p>野球やサッカーなどの部活動は、チームの構成できる人数が揃わないと総体や新人戦などへ出場できない。松柏中野球部を例に挙げると、2年続けて9人でチームを構成し出場してきたが、数年後には厳しい状況となる。部活動による団体競技の経験は、将来地域社会(集団)を形成する人間形成に重要である。学校単位での維持が難しいのであれば、子どもたちに大きな負担がかかる前に再編する必要があると思う。例えば、野球であれば、平日の練習は所属する学校単位で行い、平日1日(水曜日)と土日に集合してチーム練習を行うなど柔軟に対応していただくことを希望する。(PTA)</p>
5 (5) 校区外通学の状況	<p>「指定校に希望する(中略)校区外通学は認められていない」とありますが、そもそもなぜ認めていないのか。「理由なく続いてきたことなので、校区外通学を完全に認め、児童生徒が申請した時点で認めることとする」など、現制度の改変を明記した文言に改めるべきだと思います。(一市民)</p>
5 (6) 学校跡地の活用	<p>学校跡地の利用については、地域性を十分に考慮した上で地域の活性化のためにも有効に活用することを望みます。(PTA)</p>
その他	<p>何が平成23年の答申とどこが違っているのか、簡単に概要を示していただくと、イメージをもって内容が理解できると感じました。目指すべき学校規模は、数字で示されたのではなかなか具体的にイメージすることが難しいと感じます。(学校関係者)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八幡浜市学校再編整備検討委員会の役員メンバーを見ると、対象地域である日土、昨年話が出た真穴地区から誰も選出されていないのはどういう意図か。</li> <li>・路線バスが廃止にならないために、通学用として子どもたちに利用させるのであれば、まず、八幡浜市職員、議員全員、公共交通機関を通勤に利用するよう、義務づけるべきではないか。</li> <li>・委員発言「配置基準については、おおむねの基準はあるが、バス等での通学方法も考えられるため、あまり距離にこだわって考える必要はないと思う」そう思う地域から、バスで30~40分かかる地区へ逆に通学してもらい</li> </ul>

たい。そういうへき地こそ、勉強には良い環境ですよ。

- ・12年間、長距離通学を余儀なくされる地域のことをどこまで真剣に考えて頂けますか。
- ・とにかく、旧市内バスで回れる範囲の委員さんだけの話し合いでは納得いきません。（一市民）